

『縄文悶々土偶恋慕』

—じよーもぴあ版—

作：清野 和也

この物語は、縄文の村が、これまでの狩猟・採取中心の生活様式を捨て、稲作定居を選択するまでを描く壮大で愛に満ちた一大スペクタクル縄文時代劇である。あなたの心の中に眠る、縄文魂(ジヨウモンスピリット)に響きますように。

◎登場人物

【縄文村の住人】

- アイノネ(男性)
- サンクル(男性)
- イソノアシ(男性)
- サンニヨアイノ(男性)
- シカルンテ(女性)
- アシリアイノ(女性)
- マキリ(男性)
- チキリアシカイ(男女どちらでも)
- テキアンノ(男女どちらでも)

【弥生村の住人】

- イタク(男女どちらでも)
- パテク(男女どちらでも)

※本作品は、福島市の縄文遺跡・じょーもびあ宮畑をお客さまと共に移動周遊しながら上演をした野外劇の上演台本を、劇場でも上演できるように加筆修正したものです。

一場

激しいビートを刻む音楽の中、幕開け。縄文人たちがビートに合わせて、火を囲み踊っている。リズムに合わせて身体を揺らし、魂と大地を震わす、舞踏。踊りが終わり、曲が一変する。

全員 覚えているでしょうか！この夢を

サンクル 燃え盛る火を囲み

アシリ 大地踏みならし

マキリ 踊る人々を

シカルンテ 見上げれば 今にも 降り出しそうな 笑う星々を

イタク&パテク 踏まれた大地の鼓動は 魂震わすリズムに

チキ&テキ 寝ていたのに 思わず

イソソノ 動き出してしまいそうな衝動を

全員 覚えているでしょうか、この夢を

アイノネ 魂に刻まれている

全員 この夢に どんな意味が あるのか

はたまた なんの意味も ないのか

あなたの体の中にあると か 言われてる

でも わたしもあなたも 見たことがない

DNAの螺旋の中に 紛れている かもしれない

縄文魂(シヨウモンスピリッツ)に問わば 震える

縄文人一同 シカルンテ！

場面代わり、シカルンテによるアシリに子が宿ったことへの感謝の祈り

シカルンテ これまで天に返した命が巡り、いま、アシリに新しい命が宿りました。サンク

ル、アシリアイノ、二人の子が再び還ることなく、出で来きますように……。

この大地に、そびえる山々に、吹き下ろす風のなかに祈りを。

めへりめへるめへまれしめへみよめへきたまえ。

縄文人たちは、思い思いに、それぞれの祈り方で祈る。

そこに現代風には「弥生時代の営み」を選んだ村に住むイタクとパテクが
やって来る。

イタク 決まった？

パテク 決まった？

イタク&パテク 稲作定住始めようよー！

イソノノ また来やがったのかー！ 考えるまでも無い話だ！

イタク そう、考えるまでもないじゃない、ねえ、パテク

イソノノ 俺達は生き方を変えねえ、良いかー！

イタク&パテク うんうん解る、解る。あなた達は、稲作定住の素晴らしさを知らないんだ

パテク 知らないなら、教えてあげるが

イタク 世の情け

パテク 稲作定住のメリット

イタク 安全に食べ物にありつける

パテク 狩猟生活、確かに肉はうまい。うまい、肉はうまいが！危険が伴う

イタク 熊！

パテク がおー

イタク イノシシ

パテク ぶおー

イタク エゾシカ

パテク しかー

イタク 激しくリスキー！ 今まで、この村で、狩りで怪我をした人はどれくらいいま

すか？命を落とした人はー？手の指では足りないでしょう！

ところがどっこい、稲作で死ぬことはほぼ無い

稲は噛み付いたり、襲いかかってくるはしない！絶対に安全ですー！

更に肉と違って米は保存が効くー狩りと違い食べればぐれ心配ナッシング！

稲作は共同作業ー男も女も、子どもも大人も一緒に稲作れるー！深まる

人々の団結！生まれる会話、育まれるコミュニティ。ときに生まれる
稲から始まるラブストーリーー！！

イタク
イエス、稲作！

パテク
レッツ、稲作ー！！

イソソノ二人に矢を構えて

イソソノ
何度来られても、答えはノーだ。さっさと出ていけ！

サニヨ
イソソノ！やめないか！

マキリ
そう悪くない話だと思っけど

イソソノ
なんだと！

マキリ
いや、だって俺ちよつと稲育ててるけどさ、旨いぜ、米。あれや

チキ
そうだよ、兄貴、うまいぜ！

テキ
ああ、うまかったな、米！

イソソノ
子どもは黙ってろ

チキ
そうやってすべ子ども扱いする

イソソノ
ガキだろうが実際

マキリ
素直なだけだよ、なー？

イソソノ
いいか、俺たちが今こいつらに、弥生の奴らに問われているのは、どう生きるか
って話だ

マキリ
変わらないって、そんなんさ。何食うかってだけの話。俺たちが大事にしてる
ものって、そんなものだったわけ？狩りするか、稲作かってだけで変わるの？
やってみりゃいいじゃん、まずさ、稲作

イソソノ
お前は狩りが下手だからそついうことを
ここ数年、猪も鹿も前ほど採れなくなってるだろ！

イソソノ
今だけだ。天は大地は俺たちを見離したりしない。そうだろうー！みんな！お
い、チキ、テキー！

マキリ
チキテキチキテキ、稲作始めたら米 たっぷり食えるのになあ

イソソノ
米より肉だろー！チキテキ 肉汁したたる

マキリ 散らばる獲物 取りそこねたら 今日もまた 食えない飯！ 待ってる 餓死！
イソノン 餓死前に巻き返し、狩りに出る俺たちに 助太刀すらない 冷たい マキリっ
いてるお前ら 呆れた 兄貴！

チキ 兄貴：

マキリ おいおい！米の良さ 褒め言葉 並びたてまつれ、それ

イタ&パテ 断然 安全 稲作 反面 万年 危険 狩猟生活

テキ 晩年 危険：

イソノン おいマキリー！

マキリ イソノン〜！

間に挟まれ困っているチキテキをかき分けてアイノネが土偶を持って現れる

アイノネ ちよつと待ってくれよー！

イソノン なんだ

アイノネ 今日は、サンクルとアシリのお祝いなんだろうーなに喧嘩してんだ。なあ、頼む
から…。今日くらいは、今日くらいは良いじゃないか

サンニヨ そうだな。弥生の村の。悪いが、今すぐに決められる話ではない

イタク いつまで待てばいい？

パテク 明日、明後日、その次？

サンニヨ それは

イタク それでは

イタク&パテク 次の満月まで待ちましょう！

イソノン 二度と来るんじゃないけっ！

チキ&テキ 待ってよ、兄貴！

サンクル、アイノネ、アシリ、シカルンテを残して縄文人たちはそれぞれの自分
の家に、弥生人たちは自分達の村に退場

サンクル アイノネ、ありがとう

アイノネ 弥生の奴らが山向こうにやっけてきてから、この話ばかりだ。せつかく二人に

子が宿ったっていうのに。おめでどう、サンクル、アシリ

アシリ 不思議な感じ

アイノネ 不思議？

アシリ 不思議だし、なんだか怖い感じもする。別な命がここにあるのは

シカルンテ アイノネ

アイノネ ああ。シカルンテ、これを

アイノネからシカルンテに、シカルンテからサンクルに土偶が渡される

サンクル 土偶か！ ありがとう

シカルンテ 礼を言うならアイノネに。二人のために想いを込めて創ってくれました。

サンクル ありがとう。……アシリ

アシリ うん、ありがとう

シカルンテ二人に再度祈りを捧げ退場

アイノネ 足、大丈夫なのか？

サンクル だいぶ良くなったよ。ずっとアシリが看病してくれたおかげだ

アイノネ 意外だなあ。アシリが

アシリ なこ？

アイノネ いや

アシリ 弥生の話、聞きたかったから

サンクル ありがとう、アシリ

アイノネ 無茶はするなよ。もう一人の体じゃないんだから

サンクル わかっている。もともとアイノネに助けてもらった命だしな

アイノネ 弥生の奴らもひどいことをする。怪我をした人間を見捨てるだなんて

サンクル 見捨てられたわけじゃない。ただ、はぐれてしまっただけだ

アイノネ ……いいか、サンクル。お前が元いた弥生の村と違って、この村では誰一人見捨

てたりなんかしない。それぞれが出来ることをやればいい。良いか？

サンクル　ごめんな。この足のせいで、いま何もできなくて。狩りも手伝えない

アイノネ　だから、なに言っただってー弥生の村のこともいろいろ教えてくれるだろ。なにより新しい命をこの村にもたらしてくれた。それだけで十分だ。……それでさ、あのさ、それわ、

サンクル　うん、土偶？

アイノネ　この村ではな、子どもが無事に生まれてくるように、命が巡ってくるように、土偶をつくるんだよ

サンクル　何度も聞いたよ。でも良い土偶だ

アイノネ　わかるかー？いや、でもな、俺には形をつくることじかできないからな。シカルンテが俺の土偶に祈りを込めてくれる

サンクル　いやいやいや、俺、アイノネの土偶めっちゃ好きだわ。「この……この曲線ー」さすが村一番の土偶職人

アイノネ　やめろよ。いや、まあ狩りもなにも上手くできない俺がさ、これだけは出来たからなあ。はじめてうまく焼けたときはうれしかった

サンクル　ホント、すげえよ。俺、作ろうとしたけど、全然うまくできなかったもん

アイノネ　ちっちゃい頃から、これしかしてこなかったからね

サンクル　ちっちゃい頃から土偶つくってんのー？

アイノネ　こっそりね、作ってたんだ。親の粘土盗んで

サンクル　なにがお前をそうさせたんだ

アイノネ　なんか好きだったんだよ。作って親に見せたら、「こっぴどく怒られた。でもさ、その時の土偶を、あのシカルンテが褒めてくれた。大地を風を感じるって。その時にはもうシカルンテには神さまたちの声が聞こえていたから、村でも大切にされてさ。だから、俺も許されて……それからもう良い土偶をつくりたくなって

サンクル　土偶職人になった

アイノネ　ああ

サンクル　いやあ、良いなあ……やっぱり、縄文のそういう生き方最高だよ。西の生まれの俺たちには、無い考えだからさ。風と共に生きろっていつののかな

アシリ ぜんっぜんわかんない、そっぴいっの

サンクル アシリ

アシリ あんたは、そっぴいっですっ感傷っそれとも羨望っていっのっなんか浸るう
とするけど、そっぴいっの

サンクル どういうこと

アシリ ねえ。アイノネ。本当のこと、どうも思ってるの。稲作中心の生活のこと
え？

アシリ 受け入れなくて良いのっ本当

サンクル アシリ、あのな

アシリ 西の方はほぼ全部、稲作になってるんでしょっこの辺りの村も、ほとんど稲作
に移ってるって聞いてるし。ようは取り残されてるんでしょ、私たち

サンクル いや、あの

アシリ 時代の波に乗れてないっていつか。「このままだと滅びる」って思っ。と、いつかなん
かもっ、滅びっの

サンクル 滅びてはないだろー！ なあ、アイノネ

アシリ アイノネ、変化を恐れないの。忘れないで

アイノネ あー、まあ、考えとくからー！

アシリ いま、変わらなかつたら、変わらないと思っ

サンクル そんなことないだろ

アシリ あんたも。もっとよく考えてっめ

サンクル 考えてるってー！

アシリ なに考えてるの

サンクル ふたりのことっいつか

アシリ は？

サンクル あ、いや、三人のこと

アシリ いつまでもこのままじゃいられないと思っ。シカルンテの祈りだって届いてい
ないでしょ。だから食べるものが取れなくなってるの

アイノネ それは違う

アシリ 違うっの

アイノネ 必ず還ってくる

アシリ そっ

アシリ退場

サンクル アシリ、待つて！ アイノネ、土偶、本当にありがとう！

アイノネ サンクル

サンクル 悪いな。不安なんだと思う、アシリも。アイノネの、シカルンテの祈りもちゃんと届く。俺はそう思うよ。そうだろう

アイノネ うん。シカルンテの祈りは必ず届く。絶対に無事に生まれてくる。これまでもこの村をずっと救ってきたんだ

サンクル なあ、どう思ってるんだ。実際のところ。稲作

アイノネ 稲作はじまつたら、土偶、作れなくなるんじゃないか？それはいやだなあ

サンクル お前はいつもそればっかだな

アイノネ ああ。それしか能がないんだ

サンクル 土偶作れるなら、稲作でも良いのか？

アイノネ 少なくとも縄文の世では、すべてが祈りなんだ。その中でつくる土偶に意味があるんだよ

サンクル すごいことを言ってるのはわかった

アイノネ 茶化すなっ

サンクル そんなスゴイ土偶職人の土偶、ありがたく頂戴するよ

サンクル退場。姿見送りアイノネも退場

二場

村近くの山にて縄文人たちが集団で狩りをしている。なお、そこにアイノネ、チキ、テキの姿はない。

縄文人一同 ハラハッタ、ハラハッタ、ハラハッタ

サンニヨ いやいよ蓄えていた食い物も尽きる！今日の狩りでかならず仕留めるんだ。小さな兎でも良い！

イソノノ 馬鹿言うな。猪か、もしくは鹿を仕留める！今日こそ腹いっぱい飯を喰らうんだー！

全員 おおー！

サンニヨ 四方から獲物を追い立てろー！

狩りをする縄文人たち。イノシシを取り囲み、イソノノが仕留める。

縄文人たち イソノノが、イソノノが仕留めたー！

縄文人たち狂喜乱舞しながら村へと退場。イソノノ採った獣に祈りを捧げている。マキリ、それを見ている。イソノノ、マキリに気づき話しかける。

イソノノ なにが稲作だ！なにが米だー！俺がいる限り、食い物には困らせねえ！

マキリ 怪我してたんじゃねえか、そいつ。だから仕留められたんだろ。

イソノノ バカにしているのか！別に怪我などしていなくても

マキリ ま、わかってるよ。ただよ、その足引きずってる獲物見てさ、なんか不安になっちゃったよ。お前が動けなくなっちゃったらいよいよ終わりだろうなって動けなくなるとっ

イソノノ 狩りには危険がつきものだ。大怪我をしたら

マキリ 馬鹿言うな。怪我をするのは下手な証拠だ。逃げることも出来ない愚か者だ。

イソノノ …(鼻で笑いながら)アイノネでもあるまいし

マキリ アイノネは怪我なんてしないだろう、そもそも狩りにも出ないんだから

イソソノ 土偶をつくるだけの気楽な仕事だ

マキリ 本音だな

イソソノ だが、あいつよりも独創的な土偶は俺にはつくれない。土器もだ。ひとつとして同じデザインはなく、燃え盛る炎のような……魂が震えるものをつくれるそれは認めるよ

イソソノ あいつが優れた土器を、土偶をつくるから、動物たちが俺たちのもとに戻ってきてくれる。命を頂き、また天に返し、また地に戻ってくる。…稲作となればどうなるのだろうか？

マキリ 米だって同じだろう

イソソノ 俺はな、マキリ。」田んぼ」というものを見たことがある。獲物を追って行って、山向「この隣村まで行ってしまったときだ

マキリ 俺もある。美しいものだろう。俺が行ったのは実りの季節だった。稲穂が風に揺れていた

イソソノ 俺は恐ろしかったんだ。大地が、草木があつた場所がおそらく人の手で整えられていた。そこに水がひかれている。人々が同じ動きでなにかを植えている。その姿は確かに美しい。美しいのだが……。大地が、人の手であそこまで大きく変えられていた

マキリ 壊しているわけじゃないだろ。なにをそんなに恐れてるんだ？

イソソノ …俺が怖がっているというのか？変わることを

マキリ 変わらないって。お前の狩りの腕は稲作をやったって貴重だろ。別に狩りをやらなくなるってことじゃないんだよ

イソソノ お前はやはり稲作に移りたいんだな

マキリ 最初からそう言ってるじゃないか。なんで、そんなに意固地になるんだ

イソソノ …

マキリ 言っちゃ悪いが、今日だって結局は、猪だった一匹。少し前ならこんな一匹で喜びはしなかった。

イソソノ 当分は食い繋げる。十分だ

マキリ 天の月が一回りして、ようやくこの一匹だぞ

イソソノ …かならず、命は廻つてくる。かならず！

そこにテキが駆け込んできて

チキ 兄貴……！

イソソノ どうした、チキ……！

チキ テキが熊に……！

テキが、続いてテキを追って巨大な熊が現れる。足がすくんで動けなくなって
いるテキ

イソソノ テキ……！

マキリ おい、イソソノ……あのデカさ、二人じゃ無理だ！

イソソノ 馬鹿言つな。このまま見捨てろつていうのか

マキリ チキ、ほかの奴ら呼んでこい……！

チキ わかった！

イソソノ あれだけの獲物逃してなるものか。あれこそ、神さまが遣わしたに違いね

え……！

マキリ おい、イソソノ……せめて、他の人たちを待て

イソソノ 村一番の狩りの名手、かならず仕留める……！

イソソノ、テキを逃がすことには成功するが熊によって大怪我をおつてしまう。

マキリ イソソノ、大丈夫か……！イソソノ……！

暗転

三場

場面代わりアイノネの竪穴式住居のもとにサンクルが訪ねてきている

アイノネ ちよつとこれ、この土偶見てほしいんですけど

サンクル あゝ、ちよつと待って、この曲線。この曲線

アイノネ おおお、解ります？

サンクル 尊い

アイノネ …サンクル。それ、お前にやる

サンクル えー！いいのー？

アイノネ 実はそれ、俺がつくったやつじゃないんだ

サンクル 誰が作ったんだよ！？こんなすごい土偶

アイノネ わからない

サンクル え？

アイノネ 村はずれで見つけたんだ。たまたま。土の奥深くに眠っていた。俺たちがこの地に住みだす、ずっと昔。この辺りに住んでいた誰かが、きつとつくったんだろ

サンクル ずっと昔。俺たちと同じように、人間がこの土の上に生きていた

アイノネ そう。千の夏と冬を越えた遙か向こう側。ずっとずっと昔のことだと思つ。誰

かが何かを思つて創つた。誰かが同じように生きていた。その証の土偶だ

サンクル 良いのか？

アイノネ ああ

二人が土偶談義で盛り上がっているとところにサンニヨが駆け込んでくる。

サンニヨ アイノネ！ サンクルも一緒か！

サンクル お、飯かゝ！ アイノネ、今日は、イソンノがイノシシを捕まえたんだ！

アイノネ 聞いたよゝ

サンニヨ イソンノが、片腕に大怪我をおつた。熊にやられたらしい

サンクル え？

アイノネ 熊にー？

サンニヨ テキを守ろうとしたんだ。…利き腕だ。もはや狩りは難しいだろう

アイノネ そんな…！

アイノネ、イソソノのところに向かおうとするが

サンニヨ 今はそつとしておけ。チキとテキが診ている

アイノネ …

サンニヨ それよりもだ。狩りの手が足りなくなった。

サンクル それよりつて！ 大怪我負ったんだろ！ そこから病でも入ってきたら

アイノネ わかった

サンニヨ 早朝から狩りだ。結局、今日も食うものがない

サンニヨ退場

サンクル …あんな言い方ないんじゃないか

アイノネ サンニヨだつて辛いんだ。狩りへの恐怖だつて高まった…。だけど食うものもない。誰かが悪者になつてでも狩りに行って食い物を取らなければならぬ。だから、ああいう言い方をしてるんだよ

サンクル でも、お前、アイノネ、狩りなんてできるのかよ

アイノネ 任せとけて。俺だつてなんてつたつて縄文人だぜ！

翌朝。再び狩りに出る縄文人たち

サンニヨ 大怪我をしたイソソノの代わりに、アイノネが今日から狩りのメンバーに入る
ことになった！

アイノネ 久しぶりの狩りです。これまでの土偶づくりで培ってきたことを狩りにも活かせるようにがんばります…！よろしくおねがいします…！

サンニヨ 近くにイソソノを襲った熊もいるはずだ。いいか、熊を深追いはするな、一人

で当たるな。力を合わせて今日こそ必ず獲物を狩るんだ！

縄文人一同 おおー！

サンニヨ 罾をしかける！

狩猟のための罾をしかける縄文人たち。しっかり罾にはまるアイノネ

アイノネ ああああああ！

サンクル どうした、アイノネー！

アイノネ 助けてくれー！

マキリ お前、なんで、罾にかかっているんだー！

アイノネ 違っんです、違っんです！

サンニヨ アイノネ… 俺たちが馬鹿だった。土偶を作ってくれ

アイノネ いや、まあ…

アシリ ダッサ

アイノネ あ、はい…

再びアイノネの住居にて。イソソノが来る

アイノネ …正直入こむわー

イソソノ アイノネ、良いか

アイノネ イソソノ、お前大丈夫なのか

イソソノ すまねえ、俺の代わりに狩りに行くことになったんだってな

アイノネ あー、まあ、出勤初日でクビになったんですげね

イソソノ 明日からは俺が出る

アイノネ 何言ってるんだ、イソソノ

イソソノ 片腕でもお前よりは出来るだろ。俺が絶対にあの熊を狩ってやる。見たこと
もねえデカさだったんだ。アイツを狩れば当分は生きられる！

アイノネ 良いけど、お前まずはしっかり治してから

ろ、廻る命を感じろ、「ねろ」「ねろ」「ねろ」...

イソノ

ああ、ああ...

アイノネ
こねろ、「こねろ」「こねろ」「こねろ」...

二人が粘土をこねているそばで、シカルンテが舞う。土をこね終わって、ようや
くアイノネたちがシカルンテに気づき

アイノネ
シカルンテ

シカルンテ
イソノアシの怪我がどうか良くなりますよう祈りを捧げました

イソノ
ありがとう

シカルンテ
アイノネに話があります

アイノネ
え、ああ

イソノ
アイノネ

アイノネ
明日、朝だぞ

イソノ
わかったよ

イソノ退場

アイノネ
どうしたの？

シカルンテ
……この村は、どうなると思うっ？

アイノネ
え？

シカルンテ
ただでさえ、食べるものがないのに、イソノまで狩りが出来なくなつて。き
つともつと大変なことになる

アイノネ
大丈夫。イソノはきつと良くなるよ。シカルンテが祈ってくれた

シカルンテ
...

アイノネ
それに食べ物はない、命はね、きつと巡る。そうだろう？ 獣も魚も、木の実も、必
ず還つてくる。みんなも信じてる。

シカルンテ
ごめんなさい

アイノネ
どうして謝なの？

シカルンテ イソソノの怪我は、たぶん良くはならない

アイノネ え？

シカルンテ …私にはそんな力は無いから

アイノネ 何言ってるんだよ

シカルンテ わかんないもの。大地の声とか、風の声とか

アイノネ えー…

シカルンテ ちつちやい頃はわかったたのかもしれない。聞こえていたのかもしれない。でもね、今はわからなくなっちゃった。聞こえなくなった

アイノネ そんな

シカルンテ ごめんなさい。ずっと黙ってたの。ずーと…

アイノネ でも、実際に救われたことだって

シカルンテ 偶然よ。そうじゃなかったことも多かったはず。そうじゃなかったときは、祈りが足りなかったなんて言い訳してた。…幻滅した？

アイノネ いや…それよりも。ずっと辛かったんだろなって

シカルンテ え？

アイノネ ひとりで抱えてたんだろ。そんなの縄文らしく無い

シカルンテ ……すつきりした

アイノネ え？

シカルンテ 誰かに言いたかったの。ずっと。アイノネなら許してくれるって解ってて、だから、うちあけちゃった

アイノネ なんかずるいなあ

シカルンテ …じゃあ、お詫びに私の夢を、聞かせてあげる。誰にも話したことの無い夢

アイノネ 夢？

シカルンテ そう。日が落ちて寝るとキレに見る夢はなへへ。それでも、同じへへらしいかわかわしてて、現実感がなくて。こうなったらいいな、こうなりたいなという夢。…この歳で、そんなにもうっとうしく長く生きられるわけじゃないのに、見ていい夢

アイノネ 聞かせて

シカルンテ 私の夢はね、空を飛ぶたいの

アイノネ 空を？

シカルンテ 鳥みたいにはバタバタとするのも嫌だな。風に乗って、ただ飛んでいく花びらの

ように、木の葉のように

アイノネ いつかは落ちてしまう

シカルンテ それでも良い。こんな仮面なんて取ってね

アイノネ ここから離れたいの？

シカルンテ そうじゃない。普通に生きてみたいの。ただ、普通に

アイノネ 不安じゃない？自分の役割がなくなるの

シカルンテ そのために生きているわけじゃないから。……きっとみんな夢を見るの。叶わ

ない夢

アイノネ そう

シカルンテ アイノネの夢は何？

アイノネ んー、このまま土偶を作り続けて生きることかな

シカルンテ 変な夢

アイノネ 俺の土偶でみんなが幸せになってくれたらそれで良い

シカルンテ 他人が幸せになるだけで幸せ？アイノネは

アイノネ ああ

シカルンテ 私はそんな夢、信じない。人はそんなものじゃない

アイノネ ……

シカルンテ 誰にも言ったことのない夢を話したんだよ。アイノネもちゃんと話してよ

アイノネ シカルンテ、稲作受け入れたいのか？

シカルンテ え？

アイノネ 俺。シカルンテのことを思うと、このままの営みを続けたほうが良いと思って

た。シカルンテの力、信じたかったし

シカルンテ ごめん

アイノネ そうじゃなくて。……いや、うまくいえない

シカルンテ ……この村は、決めなきゃいけないときなんだと思う。このまま狩猟中心の、こ

れまで通りの営みを続けるのか。それとも、稲作定住を受け入れるのか。明日、

祈りの場にみんなを集めたの。そこで決めましょう

アイノネ なあ、シカルンテはべっと思ってるんだ

シカルンテ退場。アイノネ、住居の中に入る。
舞台上、チキとテキが出てきて。

チキ
テキ

チキ
ついてくんなよ

チキ
ほっとけるかよ

チキ
兄貴の代わりに、俺たちが狩りをしなきゃならないだろ。足手まといになら
ないように

チキ
お前、ひとりで特訓しようってのかー？

テキ
俺が村一番の狩りの名人になる

チキ
何いつてんだ。俺がなるんだ！

そこに森の中から、イタクとパテクがサンクルを連れて出てくる。

イタク
調子はどうですか？サンクル

サンクル
：

チキ
おい、テキ。あれ！

テキ
サンクルと、弥生の奴らー？ サンクルがやばいかもしれない！！ チキ。一番
近い家のやつをー…アイノネか

チキ
ああ。呼んでくるー！

テキは隠れて、チキはアイノネの家に

パテク
うまく取り入りましたね

イタク
子まで成してしまうとは

サンクル
そんな言い方やめてくれ。…良い村なんだ。良い人々なんだ。本当に
イタク&パテク ええ、ええ。だからこそ

サンクル
ああ。だからこそ、稲作を始めたほうが良い。食うものにも困っている。…だ

けど

イタク&パテクだけど？

サンクル このままではダメなのだろうか

イタク サンクル。この村の人々が好きになったんですね

パテク 素晴らしいことです

イタク とすれば、よく考えることです

パテク より良い暮らしが出来ることは

イタク&パテク 幸せです

サンクル わかつてる

イタク あなたは、救世主ですよ。この村の

その話を聞いていたテキが飛び出して

テキ おい、サンクルー！

サンクル テキ

テキ お前、裏切り者だったんだなー！

イタク 裏切り？

パテク 何を。彼は元々、我が村から遣えし者

イタク&パテク 消しますか？

そこにチキに連れられアイノネが来る

アイノネ サンクル大丈夫かー！ってあれ？

テキ アイノネー！こいつ、裏切り者だったんだ、弥生の

イタク&パテク めんどくです、消しましょう

サンクル やめてくれ！俺からよく言っておく。この子は大切なことを決める集まりに

も、まだ出れない。大丈夫だ

イタク そうですか

パテク そっちのは？

サンクル アイノネは！ アイノネは、俺達の味方だ。稲作定住を進めようとしているんだ。そうだろう、なあ

アイノネ サンクル、お前

サンクル そうだと言ってくれー！

アイノネ …

イタク 良いでしょう。余計なことは話さないことです

パテク 良いですね？

イタク 良いですね？

イタク&パテク 良いですね？

サンクル 大丈夫だ。大丈夫…

イタク&パテク それではまた明日会いましょう

イタク、パテク退場

アイノネ チキ、テキ。家に帰るんだ。俺がなんとかするから。大丈夫。な？

チキ、テキ、頷いて退場

サンクル アイノネ

アイノネ サンクル。アシリは知ってるのか？

サンクル いや

アイノネ お前はどっしりたいんだ。本当は

サンクル 俺は……。アイノネ、お前こそ

アイノネ 俺は、俺は…

アイノネの答えのない沈黙。サンクルは答えを待たず退場する。

アシリが出てきて、アイノネそれに気づく。二人は言葉を交わさず、アシリもサンクルを追ってはける。

四場

場面代わり掘立柱建物の前にて。雨。全員が集まっている。アイノネが遅れてやってくる。

マキリ ひどい雨だな

アイソノ ああ。まるで天が怒ってるような降り方だ

アイノネ ……悪い、遅くなりました

アイソノ アイノネ、今朝の、

アイノネ アイソノ、悪かった

サンニヨ 全員揃ったか…この村はいま、選択を迫られている。このまま狩猟生活を続けるか。稲作定住を始めるか?…最初に私の意見を述べる。稲作を、始めよう

アイノネ サンニヨー?

アイソノ 何言ってるやがるー!

サンニヨ 私はこの村のことを、アイソノ。お前のことを考えて言っている

アイソノ 何を!

サンニヨ その腕で何が出来るんだ? 稲作なら出来ることもあるかもしれない。狩りよりも出来ることはあるだろう

アイソノ …それは、すまなかった。俺の軽率な行動で迷惑をかけた。…俺は、アイノネに土器を土偶を教わってる。この村のために作ろうと思う

サンニヨ この小さな村で、ふたりも土をこねるの?

アイノネ 待てよ。アイソノが出来るようになったら、俺が狩りに

サンニヨ 聞け。それともうひとつ。大切な理由があるんだ

イタク、パテクが出てきて

アイソノ おい、なんでこいつらが!

サンニヨ 来てもらったんだ。話を聞け。

パテク 皆さんに改めて、お伝えしたいことがあります。どうか聞いてください

イタク この稲は、海向この大陸から、ゆっくりと時間をかけてこの細長い島国を渡り、この地にまでやってきました

パテク 米はわれわれの営みに豊かさを与えた。しかし、同時に西から迫ってきているものがあります

イタク&パテク 戦です

アイノネ 戦つてのは

イタク 村と村、集団同士の抗争

パテク 争いはもちろん、どの村にもあったでしょう。命を奪い合ったことももしかするどこの村にもあったのかもしれない。ただし、戦はそんな話ではない

イタク 人と人が殺し合い、奪い合い、相手を支配する

パテク 他者の生命を己がモノにする

アイノネ ちよつとまつて、よくわからない。命というのは誰のものでもないだろ

イタク それはこちらの考えでしか無い。戦は人をモノにする

パテク その戦が、すべてまで迫ってきているらしい

イタク あくまで噂です。噂ですが。いずれ、この村を必ず襲いに来る。食い物も家も人もすべて奪われる

イソノン そんなこと俺がさせない

パテク その腕で？

イソノン …

イタク 私たちの村と手を取り合います。私たちは決してあなたがたを無下にはしません。数がいれば、戦となったときにも守ることが出来る。守るのです、我々の営みは我々で…！

サンニヨ …この話を聞いたうえでだ。俺は稲作に、賛成と言ってるんだ。みんなはどう思う？

マキリ 俺は、はじめから賛成だ。今の話聞いて、ますますな！なあアシリ、お前もだろ！

アシリ ……ねえ、シカルンテ

シカルンテ はい

アシリ 命は巡るのよね。私たちが食べた生き物の命も、枯れていく木々も。風もやが

て巡って、新しく生まれる

シカルンテ ええ、そついわれていますよ

アシリ それじゃあ、戦で殺された命も、殺した人の命も、ここに廻るのかしらっ？そんな恐ろしい命も。めぐるの？

サンクル アシリ

アシリ …私も、賛成

サンニヨ イソノン、サンクル、アイノネはどう思う

イソノン 俺は……俺が出来ることをやるだけだ

サンニヨ 賛成とみなす

イソノン …

サンクル 俺は…

イタク&パテク もう聞くまでもない。決まりですな

サンニヨ さあ、シカルンテ。この村の決断を神々に！

そのとき突然、雷が祭壇に落ちる

サンニヨ なんとということだ！雷が祭壇にー！

アイノネ シカルンテ！無事か！

シカルンテ ええ…

サンニヨ 火を消せー川から水を運べー！

アイノネ 水瓶を、土器をー！

チキ&テキ 兄貴ー！！

イソノン 無事だったか！

チキ 俺達も手伝うよー！

必死の消火活動で鎮火するが、焼け焦げた祭壇に呆然とする一同。

イソノン 神さまが怒っているんだ…。私たちが間違った選択をしようとしているから

アイノネ イソノン

イソノン
そうでもなければ、祭壇に雷が落ちるなんてことがあるか!?

イタ&パテ
笑ってしまいますね

サンニヨ
笑い事ではない……あるのかもしれない。確かに神の怒りかもしれないお

イタク
そんなこと、

サンニヨ
そうだ、猪も鹿も、木の実もキノコも魚も……稲作を考え出してからめつきり姿を消した。神がこの地に巡らせてくれなくなった……。天にとどめ置くようになつた

チキ
……俺は、俺たちは知ってるぞ。本当は誰が怒らせたか。なあ、テキ

テキ
ああ。サンクル、お前だ……!

イソノン
チキ、テキどういことだ

テキ
兄貴、聞いてくれ。その男は……サンクルは、弥生の奴らとつるんでるんだ

チキ
見たんだ! 聞いたんだ……!

テキ
アイノネ! お前、なんで言わねえんだよ……!

チキ
アイノネがなんとかするって……!

テキ
そんな奴らの言っことなんて、全部嘘っぱちだ……!

チキ
兄貴、信じてくれよ……!

イソノン
おいアイノネ。本当か

テキ
本当だよ……おい……!

アイノネ
……

サンクル
……本当だよ。全部、本当だ。今も俺はそいつらと同じ弥生村の男だ。ごめん……

マキリ
ちよつと待て! それじゃあ、アシリも騙されて……!

サンクル
ほんとうにごめん

マキリ
ごめんですむかよ……なあ、アシリ……!

アシリ
……せんぶ知ってた。しよつちゅつ夜中に「そこそ出てへんだもの。あとつけるでしょ、普通。そしたら弥生の人たちと話してたの。だけど、だから、何?」

マキリ
なにつて怒るだろ、普通……!

アシリ
別にサンクルが弥生の村の住人だとか、どうだって良いの……! この人と一緒にいたいと思った。そしたら、この子が巡って来た。それだけ。それだけ、なの、うん、それだけ……

サンクル
アシリ
弥生の村の。戦の話は本当のことか？それとも全部、デタラメではないのか？
サンニヨ
それは本当のことです
イタク
信じられねえな
マキリ
うん
チキ

再び雷鳴。

イソノン
……神は、まだ許してくれるだろうか？
サンニヨ
……シカルンテ。大地は、水は、風はなんと言っているんだ
アシリ
シカルンテ
シカルンテ
それは
サンニヨ
はつきり言ってくれ！
アシリ
ねえ、シカルンテ、でも、解らなくなっていました。この子はどうなるの。天か
ら廻ってこないの？ねえ！シカルンテ！
シカルンテ
……
アシリ
なんとか言つて！

一同、大地を腕で、足で踏み鳴らしながら口々にシカルンテの名を必死で呼ぶ

アイノネ
聞こえないんすよ、シカルンテには。今はもう聞こえないんだ。そうだと
シカルンテ
アイノネ
アイノネ
そう言つてたもんな
サンニヨ
シカルンテ、本当か！
マキリ
お前まで俺たちを騙してたのか
アイノネ
待てって！それは、神の声が俺に聞こえるようになったからなんです。引き
継がれたんだよ、聞く力が。だからシカルンテは今日、そのことを告げる予定
だったんだ。アイノネに答えを委ねよと。それが、こんなことになってしまつて
シカルンテ
……

アイノネ …みんな不安なんだわ。わかる。だから…、俺に委ねてくれないか

サンニヨ ……ああ。神々がそう言っているのなら。なあ、みんな

アイノネ ありがとう。ああ。その前にさ。なあ、サンクル。一応聞いてくよ。どう思ってるんだ。実際のところ。この村はどうすればいいと思う

サンクル 俺は、ずっとこの村の生き方が良いと思っていたんだ。弥生の生き方ではなく

イタク&パテク サンクル

アイノネ サンクル。思ったことを言ってくればいい

サンクル 今は、稲作に賛成だ。この村は稲作を受け入れたほうが良いと思う

アイノネ アシリのためか？

サンクル …こんなこと言って、きれいごとだなんて思われると思う。でも、アシリと、子を守りたい。そして、みんなを、この村を守りたい。狩りをすれば怪我をするかもしれない、命を失うかもしれない

アイノネ あー、良いところですよね、ここ。目の前に流れる大きな川。向こうにはぼつこりと浮かぶ神住む山よ。……この村は、誰も見捨てたりはしない。山も土も風も、怒ってなんかいない。いま、食べ物が取れなくても、また必ず巡る。たとえそれが、今までとは違う形になっても

サンクル アイノネ

アイノネ 皆のもの。大地は、水は、風はこう言っている。稲作を受け入れよ

サンニヨ 稲作を

アイノネ すべては巡る日のために。イソソノアシ、お前が腕を失ったのだから、新しい祈りのためだ。この地の新しい祈りの形をつくるため。サンクルとアシリの間に子が出来たのは、二人の子が新しい世をつくっていくから。この村の決断は確かに天に届けられた。どうか祈りを。新しい世に！

一同、祈る。アイノネ、シカルンテを残して退場し

シカルンテ

アイノネ

アイノネ

みんな自分では稲作が良いって思ってるくせに、不安で、だから受け入れられない。仕方なく選んだ理由を探す。結局は、シカルンテに委ねる、俺に委ねる、

神様に委ねる

シカルンテ ありがとう。私たちの代わりに、仮面を背負ってくれた

アイノネ …空、飛べますかね、その仮面、外したら

シカルンテ どうだろ

アイノネ …北に行こうと思っています

シカルンテ どうして？

アイノネ 弥生の村には弥生の村の祈りの形があるはず。祈りと祈りが喧嘩しちゃ

うと悪いでしょう？

シカルンテ そんな

アイノネ シカルンテは最後まで言わなかったね。どうあるべきか。この村が

シカルンテ 私は…そうね、アイノネに、答えを委ねよかな

アイノネ …ずるいなあ。俺は今の縄文の生き方のほうが良いって思うようにしてた。そ

れが、シカルンテのためになるんだって思って。実は

シカルンテ 私のため？

アイノネ ああ。シカルンテの役割がなくなってしまうのが嫌で。でもさ。俺、シカルンテ

と話して、サンクルたちと、みんなと話して、俺は縄文の生き方を選びたいっ

て思ったんだ。だから、北へ行く

シカルンテ 北で何をやるの？

アイノネ 土こねて、土偶つくって、祈りを捧げようかなと

シカルンテ そう…

アイノネ なあ、シカルンテはべつですわ…

シカルンテ (間髪入れず)私はこの村に残る

アイノネ あ、そう？

シカルンテ 北、寒そうなもの

アイノネ 寒いかな

シカルンテ 寒いよ。やめておいたほうが良いんじゃない？

アイノネ 決めたから。飛べると良いな、空

シカルンテ ありがとう

五場

縄文の村人たちが、田植えを行っている。全員が整った動き、揃った動きの田植踊をしながら笑い合う人々。

アイノネはその姿を眺めひとり、里を去る。三方の地面に接吻をし、とっておきの土偶と土人形をおき、北へと向かっていく。

アイノネ

この物語は、この土の深くに眠る夢なのかもしれない

以下、アイノネをのぞく登場人物全員で

全員

この夢にどんな意味があるのか
はたまた なんの意味もないのか

あなたの体の中にあるとか 言われてる
でも わたしもあなたも 見たことがない

DNAの螺旋の中に

サンクルとアシリ、アイノネの土偶を手に取り微笑む。劇終。